

会長だより

私の幻覚体験

「腰椎椎間孔狭窄症」で手術を受けました。背骨の間に神経が当たって、足が痛くて歩けなくなつたからです。

当日午後1時30分に手術室に入りました。仰向けに寝て顔にマスクを当てられて直ぐ意識はなくなりました。

声を掛けられて眼を開きました。丁度私の顔の向いているところに時計があり、7時を指しています。そのとき何故か私の意識ははっきりして手術の予定は、腰椎の2か所を手術して、約4時間と聞いていたので、5時間半経っていると思ひました。それからとうとうして午後9時ごろまでは何も覚えていません。



そのころから夢という幻覚というか、私の頭の中につきつきにいろんな映像が現れはじめました。

まず最初はギリシヤの裁判のゲームです。映画の「レオパトラ」や「テルマエ・ロマエ」のようなドレープの入った衣装を着た人が、パルテノン神殿のような石柱の並んだ建物の中庭のような広場におおせい立っています。そして裁かれる人の名前がカタカナで現れます。その名前を私は必死に覚えようと思ひましたが、覚えていません。

その中の2人が裁判で争うのです。内容も何もわかりません。私がどちらかの勝ちをマウスで決めます。合つていればその人の画がすつと上に出来ます。次の二人が出てきて勝負します。5組ほど済むと1ゲームが終わります。また次ぎも同じようなゲームの繰り返しが際限なくつづきます。私が飽きてやめようと思つたその映像は出なくなり見えたことはありません。

次ぎはお坊さんが出て来ました。1人は入院する2〜3日前にテレビで見た、地獄、極楽を始めて言い出した人だとか、そのときの「源信」という人の肖像画で

す。もう1人、墨染めの衣の立ち姿の僧侶の絵も出て来ました。次に見たのは私のベツトの周囲に5〜6人の人が私を覗き込むようにして立っています。丁度ドラマの「臨終です」というときの状況です。しかし私の知っている人は1人もいません。その後そんな場面は何回も出ました。2人だったり3人だったりしました。お坊さんだったり、ご臨終だったり、後で思うと縁起でもないと思うところですが、そのときは何とも思いませんでした。

今回の手術は主治医のお話でも命にかかわるような手術ではないし、私は弟にもしてもこの手術で万一のことがあつても私はむしろありがたいと思つて話していたので命の心配は全然していません。に、私の深い心の底ではやっぱり命のことを思っていたのかと思ひました。どうせなら私の好きな閻魔様に出て来てもらつて私の人生の評価を聞きたかったなあ。

もう一つ不思議だったのは、半日ほど敬語が全く使えなかつたことです。頭の中では言葉が浮かんでるのに口から出るのはいらない、ほしただけです。しかも間違つたことは言つてません。薬が効いていてと思われる約1日の

間、いろんな夢を見ましたが、現れている現象以外は私の意識ははっきりしていません。夢の中でもその現象をやめようと思えばやめられるのです。この話しを人にしたいと思つていました。今まで全身麻酔の手術をした人から幻覚の話は聞いたことがなかつたので、自分ではとても貴重な体験だつたと思ひます。

「V G 槻輪」のみなさま、大変ご心配をおかけしました。もうすつかり痛みはなくなりました。元気にしています。長く歩くのは少々無理ですが、日にちが解決してくれると信じています。ありがとうございます。記・牧戸 富美子

富田お地藏さんまつり

8月24日富田お地藏さんまつりが開催されました。今年も「お地藏さんめぐりスタンプラリー」が行われた。

富田には多くの石地藏があります。地区の自治会がお守りしている16地藏尊あり、その他に個人がお守りしている地藏尊がたくさんあります。お地藏さんは古くから信仰の対象として「子供の守り神」と親しまれてきました。

富田のお地藏さんはその顔に化粧をすることで、化粧地藏と呼ばれています。

当日(24日)は、「お地藏さんめぐりスタンプラリー」の受付が清蓮寺で行なわれ、参加者には富田の名物「酒まんじゅう」が賞味でき、子供には花火セットがプレゼントされました。

同時に、清蓮寺では「十六羅漢図の展示」、「六斎念仏」、「数珠繰りへ参加」、「灯露祭り」が行われました。記・写真：大岡成一



円通寺の境内のお化粧されたお地藏さん

清蓮寺境内の中のお地藏さんの前で六斎念仏

四季彩

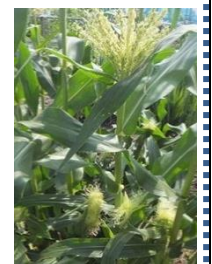
トウモロコシ(玉蜀黍)

少なくとも数千年前から栽培されていたであろうが、起源は不明。

多分アメリカ大陸であろうが原種が見つからない。20世紀に発見されたペルーのマチュピチュ遺跡の段々畑にも栽培されていて神殿への供物だつたらしい。

コロンブスによってヨーロッパへ伝播され、さらに東南アジア・インド・中国・日本の長崎で栽培された。

中国四川省を旅行した時、断崖絶壁の僅かな隙間にも植えられていた。ヨーロッパから北アメリカ大陸に移民した人達が原住民のインディアンからトウモロコシの栽培を教



トウモロコシの花

えてもらったことに感謝したのが、ヤンクスギビングデイである。日本では同じ11月23日新嘗祭から変わった勤労感謝の日、人類の文化の基本は同じと感ずる。とうもろこしの最先端に大きく開いた花のようにならば花一杯の雄花が付き、下の方で雌花が花粉を受けている。実が程よく熟した頃、空からは鳥が狙い、土の上からアライグマに狙われて、ポツコリとネットが掛けられている。記・写真：上村 サト子